

ユネスコ／日本ESD賞について

より良いESDの取組に向けた動機付けと、優れた取組を世界に広めることを目的とし、日本政府の財政支援により2014年にユネスコに創設。

1. 経緯

- ESDユネスコ世界会議（2014年11月、愛知県名古屋市で開催）において創設を発表したもの。
- 当初の設置期間はグローバル・アクション・プログラム（GAP）が実施された2015年-2019年の5年間。毎年3件を表彰。
- 2019年10月の第207回ユネスコ執行委員会において、2020年-2025年の6年間の実施期間更新が決定。2年に1回（2021年、2023年、2025年）、各3件を表彰予定。

〔2020年-2030年は、国際枠組み「持続可能な開発のための教育：SDGs実現に向けて（ESD for 2030）」の下、ESDを推進。〕

2. 内容

- 「持続可能な開発のための教育：SDGs実現に向けて（ESD for 2030）」の優先行動分野のいずれか、又は複数の領域に関するESD活動に取り組んでいる団体、学校又は個人が実施する、ESDに関する優れた事業を表彰。
- 受賞者（団体）には、1件当たり5万米ドルの奨励金を授与。

3. 選考手続き

- ユネスコ加盟国又はユネスコ公式NGOの推薦（各団体最大3件）に基づき、世界5地域から選ばれた国際審査員（5名）による審査会で選考を実施。
- 選考結果を踏まえ、ユネスコ事務局長が受賞者（団体）を決定。

4. 選考基準

- ① ESDが持続可能な開発を支える変容をもたらす教育として行われており、個人及び社会の変化につながっていること。
- ② 持続可能な開発に関係する社会、経済、環境の3つの側面を一体的に取り扱っていること。
- ③ イノベーションを促すアプローチを採用していること。

5. 過去の受賞者（団体）

- <2015年>ESD ユースアンバサダー（グアテマラ・エルサルバドル）
エコフレンドリー社会起業家プロジェクト（インドネシア）
グリーン・オフィス・モデル（ドイツ）
- <2016年>岡山ESDプロジェクト（日本）
学校社会における統合ESDスキーム（カメルーン）
グリーン・インパクト・プログラム（イギリス）
- <2017年>ジクラ・イニシアティブ（ヨルダン）
シレンゲニ小学校（ジンバブエ）
ハード・レイン・プロジェクト（イギリス）
- <2018年>ナミブ砂漠環境教育トラスト（ナミビア）
カラビア財団（インドネシア）
レッツ・ドウ・イット財団（エストニア）
- <2019年>キャンプヒル・コミュニティ・トラスト（ボツワナ）
持続可能なアマゾン財団（ブラジル）
自由・ハンザ都市ハンブルク（ドイツ）
- <2021年>ワールド・ビジョン・ガーナ（ガーナ）
ビルツァイト大学メディア開発センター（パレスチナ）
クシ・カウセイ・スクール（ペルー）